

平成29年6月13日

大山町議会議長 杉谷 洋一 様

議席番号 8 番 大山町議会議員

大森 正 治



## 一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

(質問予定時間 60 分)

質 問 事 項 と 要 旨	質問の相手
<p>1. 新町長の町政運営を問う</p> <p>4月の町長選挙で、町民の審判により竹口町長が誕生した。</p> <p>町長選挙前に、NPO 法人「大山王国」との委託契約に関する問題と住宅リフォーム助成の精算金に関する問題の二つの不正事件が明るみになった。これにどう対処するのかが町長選の争点の一つであっただけに、これを踏まえた今後の町行政のあり方が問われている。なぜなら、二つの事件とも直接かかわった幹部職員の責任は大きいと、同時に事件が起きた要因として、これまでの町行政の問題点が指摘されるからである。</p> <p>二つの不正事件を教訓として、今後の町行政をどう刷新していくのか、これを明確にしていくことが重要である。それによって町民は行政を信頼し、行政は町民の期待に応えた運営をすることができる。</p> <p>そのために、新町長はこれから町政をどのように運営していく考えなのか、選挙時に竹口町長が掲げた公約の実現に向けての姿勢とともに、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 昨年度発覚した二つの不正事件についてどう認識し、どのように対処していく考えか。</p> <p>(2) どのような基本理念のもとに町政を運営していく方針か。</p> <p>(3) その基本理念のもとに、どのような施策を重点に実行していく方針か。</p>	町長



(注) 的確な答弁がえられるよう、質問の要旨は具体的に記載すること。

質問の相手は、町長、教育長、農業委員長、選挙管理委員長、監査委員等とする。

質 問 事 項 と 要 旨	質問の相手
<p>2. 基金のあり方と債券運用を問う</p> <p>選挙後の副町長人事を巡って、基金の債券運用が明らかになり、その実態を知ることができた。これを契機として、債券運用を含む基金のあり方全般について論議していくことは有意義なことと考える。</p> <p>低金利の時代に、基金を適正な形で積極的に運用していくことは、財源確保の視点からもうなずけることである。但し、基金本来のあり方が阻害されないようにする必要はある。基金はあくまでも住民の福祉の増進のために活用されるべきである。そのために、現状の基金の債券運用は適正なのか、課題はないのか、あるとすればどのような改善を図る必要があるのか、しっかり議論し適正な運用をしていかなければならない。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) 基金のあり方についてどう認識しているか。</p> <p>(2) 基金の債券運用の現状と課題についてどう考えているか。</p> <p>(3) その課題を解決し、適正に債券運用していくために、どのような具体策を考えているか。</p>	町長
<p>3. 高校生の通学費に補助を</p> <p>町長は選挙公約に、子育て支援の一つとして「高校生への通学費の補助」を掲げておられた。私も公約の一つとしてこれを掲げた。住民アンケートの結果、3割もの人がこれを希望し、子育て・教育の項目の中では最も多い要求だったからである。この施策は、子育て支援の具体的な事業として、少子化対策に有効と考える。</p> <p>町長はこの公約の実現に向けて、どのような方針で進められるのか伺う。</p>	町長

(注) 的確な答弁がえられるよう、質問の要旨は具体的に記載すること。

質問の相手は、町長、教育長、農業委員長、選挙管理委員長、監査委員等とする。